

GRIP プログラム実施に向けた 2022 年度の調整・連携

GRIP プログラムでは、モナシュ大学とは 2024 年度の学生交換実施を予定している。このため、2023 年 3 月に、本学より GRIP 推進委員会メンバーが現地に赴き、うち合わせを行った。2024 年度の学生交換に備え、新たにフィールド演習のトピックとしてメンタル・ヘルスを加えることやそれに合わせた日本でのフィールド準備など、具体的な調整を開始し、その後もメール等で継続している。

2-4. メタバース環境の開発

2-4-1. メタバース環境の開発

メタバースとは

メタバース metaverse とは、電子空間（ネット）上の世界であり、利用者がログインやプレイしないときも存在する架空の世界である。それは、VR(virtual reality)や、ある活動用のプラットフォームとして、metaverse platform と呼ばれる。

GRIP プログラムへのメタバース導入の背景

GRIP プログラムでは、国や時差を越えて、学生同士や関係の教員等が参加し、自由にディスカッションする、あるいは、バーチャルワークショップとしてプレゼンテーションを行うなどの空間として、メタバースを導入することとした。メタバースの利点としては、ビデオ会議アプリのように立ち上げている時のみ参加可能ではなく常時、その空間があり、いつでも参加できることがある。学生は、仮想の共同学習室として使用することができる。また、ネット上に格納された教材へのリンクを張ることにより、メタバース空間内で自己学習を行う事も可能である。このような背景から、メタバースをプラットフォームとして導入するに至った。

メタバースプラットフォームの選定

GRIP プログラムにて使用するメタバースプラットフォームの選定にあたり、いくつかのものを実際に試用した。その結果、Google 等の機器や特定のソフトウェアなどの特別な準備が必要なく、かつアバターなどの作り込みが不要ですぐに誰でも参加することのできる Web ベースのメタバースプラットフォームである「oVice」を選定した。千葉大学が求めるセキュリティ基準にも達している。これは、日本の企業が開発・提供しているメタバースプラットフォームであり、主に日本の多くの企業、大学、学会などの組織が利用している。日本の外務省においても、帰国留学生のオンラインカンファレンスに使用された実績を有している (<https://ovice.in/ja/international-online-conference/>)。また、空間上のデザインも教室風、公園風、さらには任意の画像ファイルをアップロードすることにより完全にカスタマイズできることも、有用性が高く、選定の理由である。oVice では、誰がそのスペース内にサインイン(参加)しているのか可視化されており、スペース内ではアバターで近づき、立ち話のように

話しかけることも可能である。誰が参加し、どのように集合しているのかということが可視化されることが、管理の立場でも利点となる。他のグループワークを中心とする学習活動などでも有用性が高い。さらに数十人希望でのテレビ会議も可能である。ダッシュボードの機能は有償で追加すれば、交流や発話数、滞在時間などのログをデータとして取得することも可能であり、今後はその導入も視野に入れている。

メタバース導入と利用

GRIP プログラム着手とともに、GRIP プログラム専用の oVice スペースを契約し、利用を開始した。まずは使用方法を周知するために、千葉大学の GRIP プログラムメンバー教員等に入室を促し、oVice による説明会を複数回開催した。

レイアウトは、図 14 の通り、oVice の既存のレイアウトデザインをカスタマイズして、実際の GRIP 推進室の学習室と同様のカラーリングとして明るい学習室風とした。

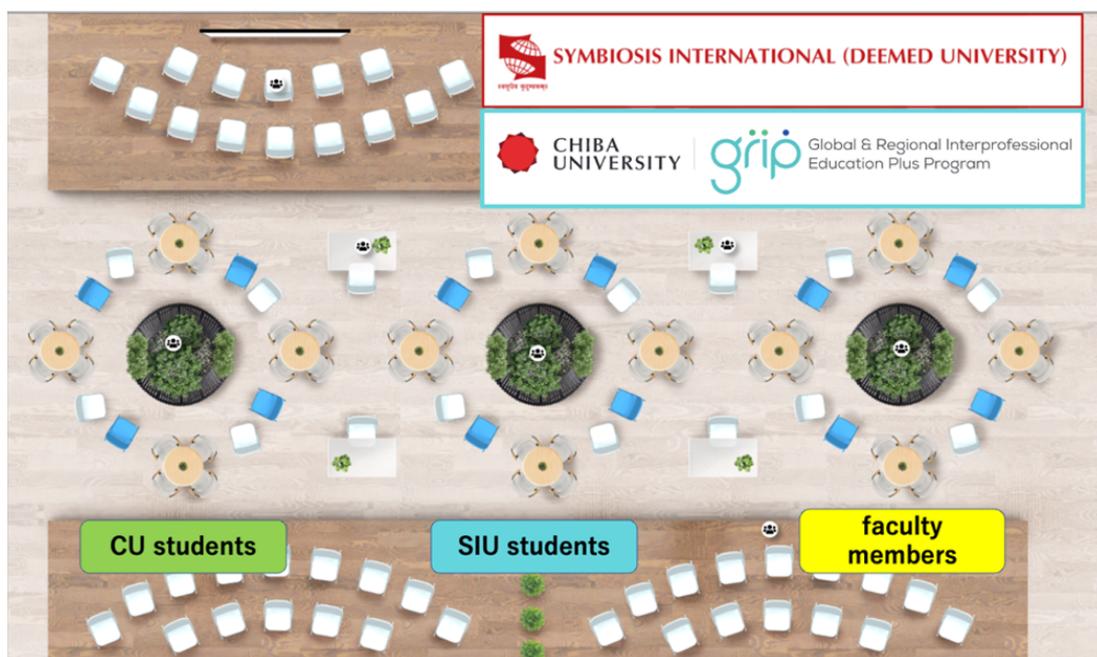


図 14 GRIP プログラムの専用の oVice スペース

参加学生に対しても、既存のマニュアルを用いて利用法を説明し、使用した。

図 15 は、学生が自主的に oVice 内で集合し、プレゼンテーションの準備を行っているところである。このように、特に、この GRIP プログラムのように、同じ千葉大学内の学生と言えども学部や研究科などが異なり、一度に対面で集合が困難な場合などは仮想の共同学習室である oVice は有用である。